



息
距
編

十七
十八

和装本
ハ7
978
9





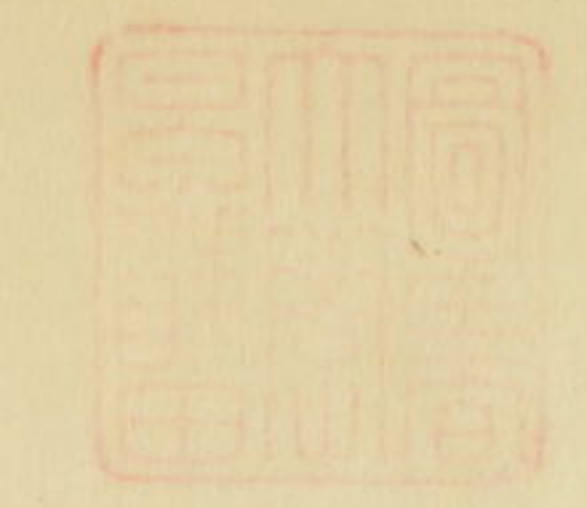
息詔編卷之十七

平賊第四

嵩原記錄卷二

西國大坂江戸注進次第

十一月五日晝西國陸船の船札大坂の城中に到着
 肥前國島原に一揆蜂起の趣を述ぶ天草表の
 儀八月之只十月廿三四五日の倭を載り城代河部備中召正
 次宅に宿番稻垣堪津守重辰町に在り久貝同幡
 古正俊を我丹波古正祐の船より小濱民部光隆に寄
 集り各評議し先早に江戸へ此旨を上り上と云ふ傳



中も暫思案江戶、此俄も何れも一揆の退治に
 遊た免の也先西國、返翰とてよく書一揆多勢
 ありぬやうに隣國の者も用意の仕に趣は之府内は
 目附の者を何れと料言して隣國の衆中、お觸一
 揆と退治の縁先可くも扱其後江戶へも此趣西
 國へも由り住進と云相殘の衆中如何とて
 西次左様下知上も住進^任意西國、早に先返簡
 と書一揆江府へ住進の状と認夜と日、^様指
 越水備中書りしに、結船脚江戶大阪行程百三
 十二里住來十日程り、評定一日以上十日漸少返

事と形、又西國へも書いた海上三百六十里在れ
 ともかくも十日ハ、^元殊文只今西風烈長海路
 無心之也雖俄事、^元其間にも十四五日、行者多は
 以上三十日之内也其間に書揆次第、^元略起しある
 名列の大事、存官何れも、^元只事の大小不成、^元退
 治中及由りし、^元然る府内、^元目附衆も、^元し、^元緊
 諸大名を令下知、^元殊伐合戦、^元指引任事、^元無
 不、^元上意、^元台今文、^元管勉任、^元由之、^元以上三十日余
 誰れも一揆、^元拵取合者、^元次第、^元に、^元略起し
 手、^元誠以、^元備中、^元思案、^元通、^元十一月十三日、^元江府、^元返

船に寄る大阪到り申上は備中へ注進し次第一
上意に相叶ひ召目今以後少致意致事備
中より下知仕之旨仰下由也

一大坂公肥前國系名色修船所行所覚

尼崎 兵庫 青山大膳亮 領分

明石 松平丹波守 領分

室 本多甲斐守 領分

牛窓下川井 松平新太郎 政元 領分

鞆 水野日向守 領分

上関下関 松平長門守 領分

小倉 是日陸地 小笠原右近大夫 領分

松倉田膳正父子并石谷十兵衛西國下河次等

一十一月九日刻大阪注進し修船所江戸系若老申
寄合於山城来れり披見所右十月廿四日旨高未

表一揆始起り同廿一日松倉城下寄来り以て進
拂申也則及台聴はるる時迄者未天学表之

儀もふおつ一揆も少分と様言ふ所併い進治進不
うるる事は則修本誥大名より松倉内膳正重昌と

為上役彼表より指下し由生良重昌腫物と煩引

此方より平愈取ら 仰付一説 此時松平伊豆守信
綱より内膳正此以膳物奉りし力 上使らるる儀如
河内より酒井道政守志勝より家早内膳正より
月之上又他人より仰付し内膳一生妙念より存候
と申す阿部連後守志秋某之内膳正宿宅へ移越り奉
分布後之躰見由西國より指をいしも不苦難し奉り候
と申段より上由り申す急内膳正宿所へ行て暫く居て
令歸城内膳正初為気台透本と申布後より仰付し
就由依り上申らる 以上云々
一月廿二日刻内膳正登城於り度旨 上意直ら

仰下今度系系表一撥駱動付ら為 上使西國より
指下の間早に罷下一撥退治より付為り目附石谷十花
貞清と禮相添可ら指下也討ふ人教ハ彼地の領主
松倉長門守同才右近木と為案内者其外鍋島信
濃守細川越中より有馬玄蕃江立花飛騨守本家
中より人教と出し其方下知次第よりお向し候より
条此者人教と下知し其方存分次第に拉引彼一撥
不悉可退治候旨より 仰付申内膳正謹而序由
上意より清く申す右石十花より 旨是又右之趣
上意に 仰付し及松倉長門守内右近木以略り下并鍋

と杜者、付、由、序、次、才、く、く、上、旨、上、賜、衆、と、
中、の、中、置、夫、より、豊、州、の、所、歸、り、主、水、向、て
某、只、今、の、城、中、の、所、に、今、日、此、六、梨、清、風、其、東
早、に、以、親、父、上、西、國、一、下、の、早、主、水、居、合、一、生
少、怒、志、ふ、く、く、則、罷、歸、
一、其、夜、寅、刻、板、倉、四、膳、山、同、主、水、石、谷、十、我、宿、所、と
去、く、西、國、一、赴、く、同、夜、の、方、品、川、到、着、又、是、之、人、馬
少、能、有、之、何、志、く、傳、馬、人、足、於、品、川、と、
少、旨、由、分、と、此、所、に、行、未、道、中、皆、以、の、お、進
引、く、由、居、正、方、より、西、町、行、大、目、付、以、状、と

指、越、た、右、左、此、後、八、人、馬、を、道、中、少、も、進、滑、是、の、内、膳
正、父、子、相、從、家人、九
池、田、新、之、傳、却、雨、會、左、馬、武、田、七、左、馬、都、筑、左、馬、堀、内、左、馬、
堀、田、庄、右、馬、中、根、半、左、傳、右、傳、伊、具、左、馬、國、枝、右、馬、
小、川、又、左、馬、石、川、市、左、馬、末、山、左、馬、野、物、左、馬、彼、是、傳、
斗、右、傳、駿、州、吉、原、に、到、り、内、膳、正、飛、扎、の、以、江、戶、屋
中、を、目、付、の、家、人、十、進、馳、走、に、由、
却、雨、此、之、傳、伊、具、半、左、馬、源、左、馬、相、田、七、右、馬、水、上、十、左、馬、
思、傳、十、左、馬、岸、田、大、右、馬、秋、下、傳、左、馬、小、林、作、九、右、馬、木、田、理、左、傳、

内山半左馬 犬塚角之島 存五部島 木部江左馬 成田右左馬
一作勝田 勝浦次太夫 和田半左馬 鈴木作左馬 望月右左馬 小林右左馬
浅井右左馬 神五右左馬 平井十左馬 大河内右左馬 池田右左馬
渡邊依左馬 大塚久左馬 鈴木曲右馬 室井四右馬 前島右左馬
渡邊伊右馬 又相治右馬 太田右左馬 浅田右左馬 同茂右左馬
鈴木右左馬 同右左馬 水野右左馬 水也 于村内右左馬
上平第五千石 知川三河中島也 水乃 人教与人
石各十石 乃 上千石 目附役 人也
一月十七日 内膳正 父子伏見、系着、京都、内膳合
足板倉周防守 重宗 当地、出向、内膳正、被對面 諸

事相談、内膳正 加勢と見て 周防守 加勢と 卷、其面、
天野右左馬 渡邊十右馬 志水右左馬 本多平左馬 加賀山右左馬
新家右左馬 福永十左馬 田上右左馬 牧野右左馬 本村川権右左馬
福持九右馬 新家右左馬 中西十左馬 寺尾右左馬 輕百人 本添加勢
周防守 内膳正 父子 同如、之、院、大、送、服、請、之、
是、之、別、水、則、令、飯、京、内膳正 父子 石各十石 同十八日、
於大坂、之、着、船、其、其、日、以、城、代、河、部、侍、中、当、正、次、の
下、屋、敷、之、て、餐、食、之、侍、中、之、以、肥、所、一、揆、之、儀、事、
假、初、之、攝、之、儀、事、重、之、儀、事、平、雨、之、儀、事、
不可、然、存、在、少、也、餘、之、少、儀、事、以、退、治、之、儀、事、
不可、然、存、在、少、也、餘、之、少、儀、事、以、退、治、之、儀、事、

正も又得よと云ふ候意も我丹波の方より
應地付内膳正江戸に於りし家余河津も当地に馳着
候に勢に相かりし是も皆駿州古京より云々家人
女也曾我丹波守与力坂井新右衛門也是も曾我又主
水が舅父不出伊勢守吉勝方より為見迄武藏庄を丈
則武市を丈小林長左衛門也此地に來り候に波是内
膳正も人数五十騎斗上云々翌十九日内膳正を松平新太
郎先攻の船八幡丸に乗り主水十右衛門小濱民部
少輔より船に乗る大坂川口より出船と云々其外
大風大雨三日と日悪浪風荒れ波中に出船難

成り由内膳十右衛門何様存候心外に延引候是批
仕合より漸く同月廿二日川口より出船西國に渡海
我冬天加西風起り安日中能事稀に内膳父子十右
以下心武急ぎ舟を船証心難仕候漸く同月
晦日豊前國小倉之城に着津候

松倉兄弟其外西國下向

附一揆等原城舟自次第

一十一月九日西國一揆起り江進達
上使被仰付小右領主松倉長門守同右近足守
九日早に海に下り余原城に下り上使の案内

誅伐可らずと存はる家人及び其の軍に教由子
原或を討死に言中、早速を難儀に言今一兩
里操子を見合は成、上使も其後、依合を扱ひ取
舞りしや、いし、長門も不及力、昨日夜に事
令延引れ

一極月、朝の風、吹、右に趣一揆を討及、
屋敷の由り、長門も家人近藤源義朝、
か、平部へ、白石市郎と忍ひ、見せ、
糸の城、引越る一人、店、糸、糸、家、火
と、千本木部と焼拂、長門も此由、

此の事念也と、
由り、
一高原、
誅伐相極、
留り、
取、
善城、
吉城、
純

一高原、天竺西所、一揆、上使、糸、陳、由、
誅伐相極、い、
留り、又、
取、
善城、
吉城、
純

今、
誤

日向縣の城は神の原純の父の三方の旗手は一方を
純純の原純の所領は是に在り
陸軍はもと切所と稱して攻入りしは先年より
子細有て有馬父子此地を去て日向國に移りて
城地荒果て誰れも居住らざる者あり草原と成果
いふ所を取立れば可損籠り由急に一揆も相極置る
俄也早に此地に集り居矢倉とを修補するの損籠り
觸りし官近御隣王一揆の輩一人も少少極月
日向原の古城集りし同月三日四郎時貞の印原城
移りし居住りし吏より一揆を自ら去石を運り麻柵を
付り矢倉の上を陳屋と掛置る門とつり堀と後一途

自に堀手と官十一町余を石垣と舟奥
あり御名を八日と官普請悉く成就し居り
此城郭極之兵糧馬鉄炮大分集り堅固なり
一右原城普請成就し馬車天守堂外所の一揆
人民少少尚城に擁籠り木綿幕布を以て旗指物と
數多振矢挾間銃炮挾石一官も少少人数を賦り銃
砲の上をとりて皆一序裏に指置る其意は洞に居
るとは銀太刀と稱し門を望む武浮武者は一子
三子も少少有り者あり鐘太鼓を相圖り堂の
惣大将登田四郎時貞と稱し何事も此宗門徒黨の一

撥小者砂上下其志と一段にしと宗門の為と此城と
扱と一命と捨と思ひ切と指花と

一撥等原城指花勢賦次身

一本丸大将 指物金瓢罩と之と在 益田四郎時貞

一二丸 指物赤根以貫 有馬掃部 重正

一三丸 指物心平人 堂寄對馬 次家

一出丸 指物多毛 有江學物 貞家

一侍大将 指物山多毛 池田源左衛門 元時

一使番 指物心平人 子岩作左衛門 正時

同断 同断 益田六藏 種重

同断 同断 口津次之侍 宗助

同断 同断 有江市元 元家

一鉄炮大将 下津浦次石丸 満安

同断 上津浦助丸 忠次

同断 有馬能之丞 助重

同断 口津右多丸 正則

一二丸 益清丸 益田孫五丸 治之

一三丸 益清丸 有馬三吉 正安

一出丸 益清丸 有馬小左衛門 實利

一二丸 鉄炮大将 有馬帆丸 正次

同日

一 法合人三十拾三人者

大矢野三左衛門

一 上総郡庄屋 助右衛門 惣右衛門 三平

一 堂壽郡庄屋 久我 市右衛門 次左衛門

一 三河郡庄屋 次左衛門 市右衛門 次左衛門

一 弓右郡庄屋 惣右衛門 長曲 半右衛門

一 弓左郡庄屋 休意 市右衛門 清次郎

一 上津郡庄屋 市右衛門 次左衛門 長右衛門 甚吉

一 布津郡庄屋 吉就 大右衛門

一 安濃木場郡庄屋 久左衛門 角内

栴山郡

惣右衛門 市右衛門

一 深江郡庄屋 甚右衛門 仁十郎

一 水濱郡庄屋 久左衛門

一 上津浦庄屋 市右衛門 市右衛門

一 下津浦庄屋 次左衛門

一 天草七右衛門 大矢野玄札

一 軍奉行五人

菅塚忠左衛門 布津郡市右衛門 有江監物入道休意

大矢野玄札 松島半之丞

一夜回頭

千、岩口、津上、津浦、望

五ヶ部、者、也

藁村、字、在、馬、木、坊、作、在、馬、木

安、使、木、坊、村、也、者、也

深、江、村、者、守、之

一、外、大、天、野、邦、右、馬、山、善、右、馬、山、以、上、之、浮、武者

貳、千、余、人、之、是、何、方、成、不、城、攻、之、所、能、成、持、口、為

助、勢、為、之、指、向、也

右、合、而、上、下、人、數、多、矣、五、子、人、働、之、者、也

此、外、老、若、是、弱、有、之

惣、合、石、城、中、指、籠、男、女、都、与、三、萬、七、千、余、人

大、天、野、邦、右、馬、子

益、田、四、郎、時、貞

年、五、十、六

上、使、目、目、附、并、西、園、野、原、城、取、諸、口、次第

一、十、二、月、朔、日、板、倉、内、膳、正、父、子、石、谷、十、花、小、倉、と、打、立

同、二、日、肥、後、國、高、瀬、着、陣、安、豊、後、府、内、牧、野、伊、禮

林、丹、波、当、集、合、山、一、揆、之、次第、惣、相、語、中、以、及、江、戶

司、當、分、之、使、松、平、三、郎、長、壽、以、及、川、馬、場、三、郎、左、馬、頭

柳、原、飛、彈、守、小、退、之、集、會、之、也

一、近、國、諸、大、名、之、使、者、或、之、家、者、皆、高、瀬、合、集、會

内膳十就指周之安お注^塔上令誠定ハ一柳一揆高
東郡原の古城取立多勢一所集り指就^{由注}
進^官卒^尔難押寄^ハ公儀上意^之趣^ハ肥
後^{肥前}筑後三ヶ國之人數^之以^テ之退^后之旨蒙^仰上
右三州之城打中^自才或^ハ陳代^之以^テ早^ニ高尔表
一人教^ヲ出^シ之^一旨^何哉^ヲ取^ル弱^ク合^戦之用^意也^也
先^進右三州之衆中^ハ催^置百名^之是^快之^有在
条^早速^ニ陳^立原^之城^表追^テ令^散向^北
一同三日内膳十就肥前國神代^着陳板倉主水^ハ高
尔表^乃之^也鍋^高信^濃伊^予之^所也^行業^内見^置

上歸^ハ始^良小林^長左^衛門^下之^步卒^甲斐^之教^信
仕^其三^郎丹^波有^傳就^ハ天^守指^向
一同月四日五日鍋^高信^濃伊^予留^守在^鍋高^安勢^小由
勢^城卒^一先^陳一^之高^尔城^遠中^未坊^都本^松
令^着陳^信濃^伊予^高尔^城遠^中未^坊都^本松^令
吉^澄也^以上^人教^寺高^尔五^十余^人今^却遠^之也^行
一同各板倉内膳正右谷十就^行列^右高^尔一^之入^城
以^板倉^長門^下家^老田^中宗^濼并^老人^の法^師武^者等^之
朱^具是^之着^一中^甲之^脱下^高爾^に至^ケル^半途^に迄^也
下^出之^者教^授武^者振^之也^相見^ハ内^膳正^右十^就

も色代は老人の系連を大儀と由急に
其後生糸城下宗淳屋敷を甲斐内務寄寓
し三日四日五日と諸士を率一を詰令未陳
一四六日と然り刻諸勢島原原城表に生陳然
中松倉右近の栗田者自才一万余人先押出
其次同苗古門より列に生押し其才死に記
其次に内務正父子十羽を押出其外一面一勢
押しに其日... あり同八日... 村堀内... 着陣...
所への道筋敵徒の一家より少勢と見辨

一四日六日松平基三郎林丹波牧野信茂
細川肥後守先高寺澤兵庫以高合下
其甚三郎丹波信茂同途召し即時天守表一押寄
届岡の城無何と其内外に相攻勢都合敵兵
以高才を被^搜し以て一控中... 一人も少勢皆
系ノ城... 指就... 系中... 男女... 在...
中... 同... 天守と相... 同... 月... 日...
寺澤兵庫以高... 相攻... 兵... 庫... 寄... 宿...
系... 度由... 上... 便... 訴... 丹波信茂... 三郎... 真...
原の城相... 向...

一同十日原之城寄手銀之陳場と取致、東濱之端
松倉長門も同右近夫、西大江之濱之鍋島人教打
用、鍋島松倉西陳の役と本陳と定先内膳正父子十
龍津ヲ取ル

一同十二日陳少屋仕寄竹束の用意と一と惣陳を鉄
炮と打立城中、堅攻亦合日と送り、
一同十四日筑後國久留米城に有馬兵部少輔忠頼八
千人教と卒、有馬着陳是、親父玄蕃江左江
留守之所、上使并親父、指圖を以て向、有馬
立花着陳以後、又、陳場搦子、暗り東、濱を立花陳

其次松倉足弟、其次有馬陳取、其次大江濱之鍋島
勢と張陳は有馬兵部立花左近何進も、武者取
先手仕度由、上使、被留、
一此州寄手、人教惣合ら三万、不足、着到也

十二月廿日原城東西攻寄、次第

一原城案内、見定寄手、人教も、相持、名城攻、可
由内膳正并十卷下知、以て同月十九日、諸將と指、
相詰、有馬立花先陣と、
見、先手と、由相定、先、
子、お、由、波、就、變、鍋、島、信、濃、守、家、老、諫、早

進軍前舟三所望中其川此表案内能存召明批
者一分と人数を以て西方松山丸を攻め内膳正
十花は段々所望に任じ松山丸を攻め内膳正
是之鍋島兄弟も世お訴と黒尾河内もは衆松山丸
一より段々此衆中間、聲を鉄炮を松山を攻め
城中央東方の進軍に任じ者も松山西方心と寄
く少加勢もこの所と東方進軍に立寄人
数を以て混じりて攻入由に約定し松倉長門守兄弟ハ
無人教し居立花勢の後を詰り攻入由に刻限の
廿日卯刻諸將一同に立由に觸れ

一同廿日之刻演刻立花左近將監忠茂五千人の勢を
以て東方進軍に取懸り鉄炮閣を作り立一同に
攻懸り左近若武者を鍋島勢に先をせらば
と存刻限を急ぐ一時え、打立召城兵も大江布
津半時より者以上二千五百人馬鉄炮を打懸
近江者と七大名少名を以て手投懸り打殺す
史も不思議下着け者とは鐘長方を指殺
いふと先途と防戦を大花と云者左近將監家
老の子も下参治大方にて例れ具足ヲ是一番景
と名乗テ屏の上と参越り書城より鉄炮三ツ打懸

其外之勢も亦陳之詰置居るは
上使下知等も
召攻り上使付来り常人を或は使者少く討
死すも亦討死銘之左記に
一同廿百少河東所之能取置り下北東と并任事
と據るも諸陳多難志城中鉄炮を打置り送り
水内膳正十死にり上使此城中と以民の一揆と存し
て一時之改治は味方大分の討死を先物改
成六坊方より進方指圖にり召諸陳徑之友に簡
敷由り中後之に

十二月廿日城攻め討死子履覺

一立花右近將監者在討死

先子大徳江

長柄軍川

鉄炮大ね

立花三左衛門

十時上口之傍

油布孫左衛門

井川

小野掃部助

吉廣善之助

佐田清之助

橋本新之助

渡邊次郎右衛門

徳部孫左衛門

岡田久右衛門

松田三郎右衛門

同子負

小姓組番江

番頭

大徳番江

鉄炮大ね

岡田修理

古庄宮内

安藤若忠

高藤勘右衛門

長柄軍川

番江

油布三五郎

立花三左衛門

立花左京

竹廻理之助

十時太左衛門 牧 佐右馬 渡 百右衛門 堀 吉右衛門
 小山田長兵衛 田原加右衛門 原 藤右衛門 長井内親元
 岡部新左衛門 油布進元 野間右衛門 少将右衛門
 福高市右衛門 大和右衛門 後藤市右衛門 戶次右衛門
 十時右衛門 松田右衛門 友松右衛門 白根右衛門
 安藤右衛門 多井右衛門 十時右馬 伊部右衛門
 中野右衛門 曾我右衛門 石田右衛門 油部右衛門
 川部長三郎 野上右衛門 安藤助右衛門 井川権平
 生田右衛門 江島右衛門 須右衛門 青木右衛門
 立花一守 板本三曲 岡高曲 旧杆孫次右衛門

田原少左衛門 石田忠右衛門 梅本右衛門 戶次孫四郎
 坂本兵右衛門 安部兵右衛門 石江劫右衛門 安田孫右衛門
 津田三郎右衛門 西原権元
 右下、雜兵、討北手原以上百八拾人余有之
 一鍋島家老諫早豐前右衛門 討北四拾人、手原六拾
 貳人之内、過一、者有

洪炮大將 馬渡安右衛門 多摩市右衛門
 一同鍋島家中、鍋島若狭守、者十人、討北手原、此
 外、鍋島勢、手原、討北、有之、以上百四拾三人

一上使、侍従、少輔、入道、討死、立石陣場を借り
持、更、討死、邦井、四郎、左衛門、大原源之助、此、松倉、
同子、原、堀屋、四郎、右衛門、野中、四郎、右衛門、此、外、行、
一有馬石馬、佐康、純、上使、使者、系、り、

討死

討死

三井丹下、山虎、吾、馬、
一松平安藝守、使者、長谷川、久太郎、討死、
一松倉長門守、家人、奥田、左京、討死、
右、討死、子、負、諸、多、合、三、百、余、人、
一同、月、廿、三、日、城、中、
今、福、名、雅、樂、
云、者、有、馬、兵、部、少、輔、

先、落、搦、捕、に、同、天、草、上、津、浦、七、
系、子、先、落、来、は、是、も、搦、取、し、

廿、以、馬、原、表、相、立、石、首

落、城、と、い、つ、と、そ、の、松、倉、也、長、門、
侍、の、身、と、捨、と、も、女、を、取、れ、
信、濃、を、淺、弓、に、敵、と、た、
上、使、と、し、何、系、も、
以、目、付、の、我、亦、顔、
此、落、首、江、戸、表、も、相、立、石、首、也、

松倉長門守、重次、同、右、近、重、頼、原、城、凍、之、見、書

一法度番

内膳屋十藏屋に仰座定

一人教押之事如何も行儀能く仕事

一陳場より内膳屋十藏屋に指圖所を押さす

一侍を崩し一騎出さす

一此方より多し一取旨をすお吉利支丹をり

仕初りお鉄炮を打せし近し御来り

働りて殺りし事

一女身せしれりし事殺りし様取捕りし事

右内膳屋十藏屋に仰座定堅固の相守に善

宵に右の兩人急度可く仰座様をりし事
其のゆえに彌以遠宵に召取し人衆も今迄一巻
之召しお宵に様取りし事

十二月五日

長門守

一當原城下有馬表に着陳刻詔次陳押次第

旗

奉行

中澤孫右衛門

鉄炮

左

右

十八挺

熊田忠左衛門

十七挺

伊藤半右衛門

廿挺

宮崎傳左衛門

廿挺

新 甚左衛門

十七挺 高橋半信 廿挺

藥車

長柄

左

右

拾本

伊藤市右衛門

拾本

伊知地権亮

持筒十挺 石井勘七

持筒十挺 多々市右衛門

對鏡小道具

堀 並作

持弓二張

乘替

馬印

小道具

步者

左頭

福岡儀右衛門

使番

左

木部弥平治

牧田長之丞

菅 加多吉

岩田善傳

堀 並作

紫田才之丞

堀 並作

左頭

林山村中惣之侍

右

岩田新九郎

騎馬

左

田中藤兵衛

下目孫太史

安藤半曲

是立又八

野添仁之丞

内藤九郎之丞

田中藤左衛門

長谷川平左衛門

右

岡本少之丞

杉山五郎之丞

理中平三郎

須賀半三郎

仁科才之丞

奥田右京

村山加曲

内藤瀨之丞

武藤七之丞

井部曲之丞

宇田右馬

拓植角太史

今我甚之郎

黒野興之丞

坂巻清右衛門

領尾彦之丞

山後吉左衛門

木部勘右衛門

小幡勘之丞

島田新右衛門

花房七郎之丞

伊藤又之丞

井上清右衛門

永田三郎右衛門

桂川查之丞

杉原金左衛門

成瀬源右衛門

鈴木清右衛門

吉田次郎左衛門

一作秘野 加地

佐三半左衛門

石原半左衛門

弓野平次

使者

横山清左衛門

右近重頼馬上

左

橋本七藏

伊藤清左衛門

西尾弥八郎

稻生半左衛門

小川伊次

水口三右衛門

使者

奥部權左衛門

右

岩本次郎

比村少三郎

新庄左衛門

茨木傳花

野瀬翁之西

尾等猪左衛門

柴田藏人

鉄炮

左

甘藷 佐野惣左衛門

甘藷 長屋曲左衛門

鉢高藤左衛門

川上三右衛門

黒野百助

横山権左衛門

林 兵左衛門

右

甘藷 伊吹平八

甘藷 廣田六左衛門

十六挺 三浦十右馬

廿挺

六角五右馬

長柄銃三拾本

西尾七郎之侍

弓

十張 桂 六之侍

十張

伊地知伊地知文房馬

騎馬 左備先

岡本新之侍

甲斐半之曲

渡邊五右馬

池田權之曲

馬車五右馬

林 治部左馬

井 兵左馬

緒川又右馬

奥中源左馬

酒賀喜左郎

坂部隼人

千賀九郎之侍

坂田六右馬

全澤角左馬

高山録之侍

高橋七右馬

川上八右馬

津田清左馬

持岡三拾挺

宇野作十郎

本間九郎左馬

下司重少八

曾我八右馬

吉良基左馬

右田權左馬

栗原加平次

野瀬又右馬

安澤清左馬

佃 孫左馬

示智并小道具以下奉行 岩村新也

長門吉馬上前

歩小性段

吉尾志摩西

金木善之勝

関内匠

金澤九郎三郎

石橋三十郎

高月右郎之勝

使番

相贈二

岩村新也

吉尾志摩西

大塚吉高

安藤吉高

山後権十郎

小國伯順

大町権之助

白井善左衛門

安藤内就助

小部市郎左衛門

聖中孫左衛門

尾井善左衛門

由利孫左衛門

玄部半左衛門

岡田角四

山後次之勝

中条借三郎

奥山茂左衛門

安藤借三勝

内田安場

白石市郎左衛門

平田権左衛門

木村新左衛門

天方又左衛門

小川長之勝

伊藤少左衛門

便番

福西少左衛門
 野部長左衛門
 明野左藤太
 熊部小左衛門
 埴池茂右衛門
 佐野小平次
 畠村源右郎
 菅我九左衛門
 原兵左衛門
 三浦新八

坪島久左衛門
 郡田仙右衛門
 近藤源左衛門
 宮崎小左衛門
 佐理長十郎
 馬場大膳
 若林五左衛門
 桑野八左衛門
 櫻尾次郎左衛門
 山内右馬之助

林 小左衛門
 多賀主水
 多右衛門
 多左衛門

一島原一揆起小次郎等
 子三付所如宰人左

坂倉三弥
 片山三郎左衛門
 森 又右衛門
 小玉三郎左衛門
 同 上
 庄三郎
 八十島守左衛門

権方

平田小膳

伊藤喜左

松田又六

松田次左

阪巻惣八

服部祐庵

岩永善六

岩永権右

同 次左

六右方

桂十右

森休吉

村山比右

林九右

伊藤喜助

本木十右

岩中伊右

同 曲左

瀧川道二

少右方

今橋久五郎

尾関平曲

末包清平

黒杉就左

堀江高彦

山本宗高

川波昌右

眉永惣左

上色次郎

多川兵六郎

久米大守

阪川忠左

村田四郎

黒木与一

橋田新左

眉田与右

右田忠右

長井清左

辻田加多

中邦弥次

細迫権曲

田中吉右

足川権右

福田言右

平塚幼左

猪飼権左

三浦宗源

服部平右

三原茂左

林六右

平井長曲

岡部文右

山本十郎

山口文右

岡部治左

小山権之

山中喜平

春日平次

黒柳内右

鈴木源之傳	大東源之傳	戸田伊樂
伊東与三右衛門	安藤権之傳	井上治部左衛門
井上治左衛門	菅田久之傳	細井三郎
三浦市左衛門	中野助清	奥村権平
伊丹仁左衛門	幸善三之九	岡谷市左衛門
勝理三郎右衛門	高藤十曲	林源之九
岸上左衛門	奥平之左衛門	勝野之傳
伊藤玄左衛門	福田重之傳	山口文右衛門
般若半之傳	稻生也左衛門	篠園花人
田坂也左衛門	上東源左衛門	大道源左衛門

林吉左衛門	小倉茂之傳	岡田市之傳
横百助平	勝田重也	五部八右衛門
内堀新我	末包也左衛門	中野也左衛門
梶村吉左衛門	園成吉甚郎	本郡新左衛門
布施文之傳	佐久右半之九	門中源左衛門
吉谷也左衛門	渡邊右部左衛門	山田也左衛門
金枝四郎之傳	加藤清左衛門	山本弥次之傳
石岡秀三郎	柳生新左衛門	井関武之傳
加藤角左衛門	比田九郎之傳	井関孫四郎
瀬尾求也	天野半右衛門	

安田八郎

此安田二月廿七日三子着同廿八日

以上人教如出

此外書翰名并部人教書付之写本在左記之

覺

一丑、十月廿五日、朝白石市郎右馬、討定通、年、年百

姓木吉利支丹立取、一、の、内、知、せ、中、中、事

一有馬村之内三吉、中、者、事

一虫喰

角田、中、者、事

一右西人を十月廿四日夜、水、夜、日、夜、事

一、一、存、廿、百、同、廿、日、是、事、部、攝、子

中、事

一有馬部之内吉利支丹繪と掛は同廿五日、代、其

兵在馬、取、出、事、百、姓、木、寄、合、打、殺、中、事

一同廿五日、晚、再、事、家、馬、是、何、能、出、事

一則、事、一、立、度、事

一同、晚、雨、目、之、部、事、事、燒、事、同、家、事

一燒、事

一廿六日、深、江、人、教、指、出、深、江、部、吉、利、支、丹、事

一討、果、放、火、仕、引、事

一同、晚、町、并、鉄、炮、町、燒、拂、事

一同晩より家中侍傳紅の妻子木并四人、女子木并
丸入置たり

一同晩より籠城仕り

一深江郡にて討果し者あり

一大手の門に討果し者あり

一干石の田善に至りし所、集居し吉利支丹
の隣村に代宿松田長之博、新井玄左衛門、西人
預り申す、百姓をよこし、仕置れり打殺し
あり者、小濱、遊りし

一神代、諫早、就造守熊、在りし、上りし

一右に返事を書き上りし事

一熊本、就造とあり、加勢の人数未に相越、府内
に同日附衆、探りし、其右、人数可に

相越の右、西所に返りし、事あり

一府内、同日附衆、探りし、様子書状を上りし
事あり、同下書上りし事

一三會より千石迄、同日十三ヶ郡の内あり、
水に十二筒村、吉利支丹の立歸り、
場、多、本、屋、長、百姓、本、台、程、女子に召連り

石川城、多、居りし

一 東空閑より常津迄十三筒村の御儀無事
 百姓に召し出され長日山城に宗座中事
 一 西古賀茂木日見三筒村共右同前宗座中事
 一成程内澄才是任一揆南一人宛成り別分事
 一 三吉角内妻子凡十五人十月廿九日成敗仕事
 一 温泉の焼少し事
 一 津山村吉利支丹に代官高橋武右衛門致事
 一 加津佐村代官山内小右衛門安井三郎等未定
 元不罷歸の旨多分相果し流し存事
 一 焼刻し船合或拾三艘十四端より五端帆迄

一 早船拾一艘同前船十三艘之事
 一 吉利支丹不當所を焼拂進子の山門を改修
 一 後、責来り今日迄の事以度事

一 十月朔日
 一 多賀之水
 一 石奉新之橋
 一 田中宗史

六百五拾六人
 男 女
 百三人
 男 女
 三合村
 系系村

覺

百拾四人 男女
 百拾人 男女
 中本福部
 小濱部
 千石部

合貳千四百拾三人
 一千八百八拾六人
 一百貳拾七人
 一貳百三拾人
 一千八百八拾六人
 一六百八拾三人
 一五百一人
 千八百八拾六人男
 九百六拾九人男
 九百拾七人女
 七十人男
 五拾七人女
 百二十二男
 百八人女
 七百廿九人男
 七百貳人女
 三百四拾七人男
 三百三十六人女
 或百七十一人男
 二百三十一人女
 同今所再傳

合四千八百五拾八人
 寬永十四年十一月十一日
 年内陳中矢文之書

一乃十二月十三日城中
 天地同根萬物一體一切之衆生不揆貴賤亦
 非木石無名無實之暖顛呂捨緩照厚薄不顧
 惶捧矢文畢願今度之志數年國郡且非私欲
 心之妨一向宗門之教難謝天恩而救度之紀
 間無止對天帝輕命者幾埋尸野山子毒諾共
 殘其名剝於此宗旨者有科無罪或顯恥辱或

半片半生之消息、語無言、非武士無惜名利座
此許欲違上聞、不叶民苦、只有此時、迎隨命宗
門一門、而黃泉之殘、趨固古城、雖果肯我、等不
忘後生之願望、况難遁天理、荒有難哉、箠城之
徒、然之尊之有様、有眼前、九國之猛將、雙旗呼
叫之罪人、呵責之粧、待尽粮水、斷薪岩、你增、而
餓鬼道、目前現世者、雖又上之苦請、必來世九
品之上、臺生有何疑、仰願、若君押怒、挾慈之御
心緒、要之徒黨、等被遁、妻女之罪、數萬之人民
云、一町之地、根本之原、城外迄、被刎首、名揚後

代成佛得脱之縁、生前思出、死後之望、不如之
利那之間、一通、細奉、布所也、恐惶謹言

十二月廿二日

城中

上使御近習中御披露

私田此天文實作、在城中、者、四郎、と初皆
、文育、あり、者、可、也

立花子、射出、れ、天文の写、軍、長、命、也
城、内、より、度、任、被、り、者、可、ら、少、呂、由、に、台
重、り、上、に、誠、今、度、下、り、て、命、危、り、者
西、所、に、候、り、所、難、に、付、防、り、候、分、に、國、郡

たゞ望みは少しも多し屋敷の邊に掛るる屋敷に
はるる存するは能く城の邊に所を置て其の
妙は右に合吉利支丹之法に於て審みこころ
思石上は伊能城守官 敵をある軍の身命と
又捨つるにすふけあはれ能く控はるる屋敷に
妙は右に合吉利の企凡支として罷出軍に於て
之角我に於ては神に於ては合意の事なり

淨陳中

此中侍を掃所と曰ふ上中少官官と云ふの
中を掃所と云ふ所の仕合を此の者皆と

うきと成我亦も二人質の取はるる
行するもふけ中支の之ありは船一艘に
と走りしと腹と云ふは記さつての事なり
如何様ともう仕あはれは花の田の事なり
り心中の掃所と云ふは今度此の事なり
と曲をうき祿能と云ふは迷惑の中なる事なり
月廿五日の夜上総理有衆と云ふ者大御まで我
木家を取巻く焼打しと云ふは色と云ふ事なり
と云ふは又廿八日の所の者右と云ふは同前に入押
と云ふ人質を取らるる右に仕合ありと云ふ事なり

しり

一 市屏凡て出来りしは皆に我の意入置いと能
りて書物いし一 且置る言は穿鑿しりしに
うらむ

一 繪を教多りしを以て壺に入山と城込るを
以て厨下地の教多りしを以て右同あり入る

一 多賀主水殿は新し屏風も出し一 石就に
以て度は横山信右衛門殿は新し同あり

一 繪圖の寺の唐の香爐は度は山と城込
りしに石を置りしに不思議の仕合あり

橋とて迷惑仕れ我の事ハ人質兩人とて
此の用心の内りしに一 といひ借る傳中
度はりしに

十二月十日 山田右衛門作判

野瀬又右衛門殿

横山清左衛門殿

上を以て張上書りしに松倉長門守殿は内
今度當意者あり若し踏殺ししに
ト以て通為四郎殿と稱し松倉長門守殿は内
とを以て取し者ハ

板倉周防守重宗之使者之下意是又内様密談
一翌晦日内膳正方諸陳面呼集一渡趣近且江
戶伊豆守左門下向由昨夜密説とて申度好
衆に示着る大軍と早速當城に攻落とて我
面目も是之次中これ口分とて者子原北人味方無し
様一丁悪徒の追討と存其子立致し其の最
早夫しとて不及儀也明是正月元三三敵も此夜
ハ不寄申上う存油断とて押至ケ未明りう攻た者一
精の出しは是れは明郎も是二是三の働新入由
とて所何と畏今と尤しと意と由、餘事は進

子先陳者有馬兵部太輔其外攻衆に板倉獨多立是
少也有少勢を先日之城攻に先子不傳所今日先子
とて付は然変化下して知れ試らん明郎日想攻とて
之由今晦日の夜中城中へ渡開、申也
一板倉主水儀石谷十就と頼り先子と望、由
膳正同心とて主水儀も板倉長門守備、あり、役入
由、渡、田、橋、正、と、長、門、守、儀、當、所、に、守、護、す、ら
一撥蜂起之根本あるを明郎是れ討死力増も攻
取、死、有、無、と、徒、と、立、名、と、御、事、に、在、り、と、主、水
一取、成、高、名、付、り、可、然、と、由、申、渡、是、又、尤、と、由

皆人

一 夜諸陳一餉狀

條

一刻限之事明七ツ時ヨリ人教と出

次第に鉄炮と打也

一人教出の時陳中騷

一大物之外

一 相下角取紙右

一 相洞

一 砲

一小屋乃火

十二月晦日

石谷十

一 寛永十五年庚寅正月元日

輔者頼先陳と急夜中

と係出

布津堂

炮

打殺

城兵

と進討し此時寄子と惣務兵刻限お遣^故 馬
勢の関ありと増兵は惣務と察して之を揚心
関、勢加と存知名に静り居り此城兵も是馬勢
と進散し勝濟と相見え今日惣務と存居るも自意
寄子と掛りと相行居り
一者通増兵も待難ケ居り此一同日夜明け申刻半
迄方此等も一同に攻取り関を作り大報を打て右
に城下一着寄り城兵も命を捨防と戦いし鉄炮
無山時救難りしに付 諸勢容易に強攻入所四郎時
貞下居り以て大子も持て浮武者大矢野松右衛

門山善兵衛の外に氏二千余人と加勢は此人数
都合五千余人切先を揃て切出討取りと相戦り寄子
ありと北之悉攻あくと被退居
一板倉内隔正其日に立立細糸威北鐵唐子頭、
甲子着、大子月、腰指馬、包、紋打たる
鞆置系出、^ん子諸勢引色、^ん足ゆ、^ん台生、^ん先
進、^ん強出、^ん干時伊達、^ん秀宗、^ん使者
堀田権左衛門と云者内隔正、向て之振殿振ハ一定
以て之宗と云ん能ケリと見え、^ん某、^ん上
之由信正返答ハ神州、^ん人我我ん先強を

好^レ非^レ諸陳^ト巡^レ見^レて先^ニ馳^ルの下^ニ知^ル海^ノ一^ト
之^レ也^ト汝^レ夫^ト相^レ一^ク操^子次第^ニ傳^達と云^ハ捨^レ松
倉長門守陳所^ノ行^テ多^ク留^テ先^ニ陳^ト馳^ル之^レ系
以^テ上^ニ貴^方子^ト生^シ先^ニ馳^テ入^リ汝^レ云^ハ長^門内^ノ
中^ニ操^レ今^ノ即^チ未^ダ成^リ城^下付^テ四^倍在^リ汝^レ鉄^砲
稍^レ中^ニ難^ク今^ノ我^レ見^テ合^シ罷^テ召^ス
考^テ汝^レ之^レ合^ヲ遊^テ汝^レ之^レ由^ヲ進^テ答^テ不^レ進^テ由^ニ膝^ニ
立^テ腹^長振^テ此^レ記^シ南^人何^レ汝^レ汝^レ同^レ操^ニ是^レ合^ニ
事^ノ少^ク何^レ汝^レ難^ク矣^ト其^レ言^ヲ以^テ出^テ精^神軍^ヲ抽^ク
之^レ馳^テ子^ト然^レ由^ニ汝^レ下^ニ長^門守^ト不^レ進^テ汝^レ夫

由^ニ汝^レ正^ニ存^テ田^方郎^有馬^ト之^レ使^ニ有^テ馬^ト之^レ部^大
輔^方一^也夫^レ陳^今即^チ之^レ使^ニ若^ク汝^レ之^レ子^ト
又^レ汝^レ之^レ操^ニ之^レ子^ト汝^レ之^レ部^大輔^返答^進惑^半
以^テ使^テ今^ノ即^チ之^レ城^下着^テ汝^レ寄^テ座^ノ出^テ凡^ク
之^レ操^天之^レ鉄^砲烈^テ矣^ト味^方子^ト死^人數^數見^テ
吾^レ是^レ等^ヲ引^退之^レ傳^テ石^ヲ進^テ之^レ以^テ今^ノ汝^レ見^テ
合^テ之^レ汝^レ合^テ之^レ是^レ也^ト不^レ進^テ由^ニ膝^ニ腹^ニ之^レ急^テ右^ノ谷^ノ
十^餘之^レ合^テ十^餘之^レ部^大輔^備一^条着^テ之^レ跡^以以^テ
汝^レ働^テ之^レ夫^レ由^ニ膝^ニ正^ニ在^テ水^備之^レ急^テ所^ニ水^ノ
有^テ馬^ト之^レ部^大輔^子之^レ即^チ之^レ城^下見^テ一^ト之^レ内

孫正谷一丁後したる者、目ヲケテ^此進ハ者ニ^此記
と云ク、諒む^此成^此一ト捨^此支^此タリ^此布^此備^此一^此師^此、主^此水
と内膳備の目二町程有^此、諸備^此ナ^此今^此取^此タリ^此
戦ニ悉^此疲^此レ^此果^此ト

一内膳正右^此通^此ニ^此諸^此隊^此ヲ^此勵^此シ^此ト^此下^此お^此、^此城^此ヲ^此諸
備^此ニ^此面^此ニ^此進^此、^此兵^此比^此上^此ト^此、^此自^此才^此有^此タリ^此下^此リ^此立^此ト^此
高^此麻^此の^此城^此ヲ^此提^此、^此つ^此ら^此と^此城^此一^此向^此テ^此進^此出^此、^此石^此石
十^此就^此馳^此来^此ル^此去^此取^此ル^此急^此ニ^此候^此、^此上^此使^此ニ^此似^此合^此ス
ト^此止^此リ^此、^此兵^此ト^此云^此フ^此ト^此内^此膳^此正^此、^此先^此程^此寄^此テ^此の^此想^此勢^此
得^此果^此不^此進^此、^此兵^此ト^此云^此フ^此ト^此内^此膳^此正^此、^此先^此程^此寄^此テ^此の^此想^此勢^此
得^此果^此不^此進^此、^此兵^此ト^此云^此フ^此ト^此内^此膳^此正^此、^此先^此程^此寄^此テ^此の^此想^此勢^此

采^此料^此ヲ^此執^此テ^此諸^此軍^此ト^此指^此揮^此シ^此、^此馳^此シ^此ト^此下^此知^此
内^此膳^此正^此以^此諸^此卒^此不^此進^此、^此内^此膳^此正^此及^此兵^此死^此シ^此、^此勢^此斗^此
相^此率^此テ^此、^此い^此く^此と^此城^此ヲ^此渡^此リ^此、^此數^此十^此丈^此の^此石^此垣^此ヲ^此攀^此上^此
下^此岸^此下^此、^此取^此付^此、^此城^此ヲ^此棄^此テ^此、^此城^此ヲ^此斷^此ト^此シ^此
余^此ト^此云^此フ^此、^此防^此戰^此後^此兵^此、^此由^此城^此内^此在^此、^此兵^此死^此シ^此、^此勢^此斗^此
渡^此途^此依^此、^此兵^此死^此シ^此、^此内^此膳^此正^此、^此屬^此ト^此シ^此、^此勢^此斗^此
相^此戰^此、^此兵^此死^此シ^此、^此内^此膳^此正^此、^此屬^此ト^此シ^此、^此勢^此斗^此
之^此、^此越^此、^此踏^此、^此越^此、^此岸^此ト^此云^此フ^此ト^此、^此采^此、^此料^此ヲ^此腰^此ヲ^此指^此、^此城^此
兵^此是^此ト^此大^此、^此將^此ト^此見^此、^此我^此ト^此見^此、^此切^此テ^此、^此兵^此死^此シ^此、^此勢^此斗^此
と^此投^此、^此兵^此死^此シ^此、^此内^此膳^此正^此、^此家^此人^此、^此小^此井^此、^此兵^此死^此シ^此、^此勢^此斗^此
と^此投^此、^此兵^此死^此シ^此、^此内^此膳^此正^此、^此家^此人^此、^此小^此井^此、^此兵^此死^此シ^此、^此勢^此斗^此

入所ノ家人加藤源左兵衛馬印ノ打先立鉄炮
ノ高忽死ス中具左兵衛之隣ニ働ル米山与之傍彼馬
印ヲ控取リ又其之進目是ノ隣ニ池田新之助
徳浦治左兵衛成田甚左兵衛大沼自九左兵衛板井長四郎
木邦弥左兵衛石川市左兵衛板田七郎右兵衛那田弥左兵衛
水上十左兵衛黒沢十左兵衛松本佐左兵衛木田利左兵衛
秋元弥左兵衛大塚是之信松本藤十郎同助右兵衛
大塚久之信神水信左兵衛小林弥次左兵衛倉五郎左兵衛
池月次左兵衛浅見四郎左兵衛同我右兵衛板田半右兵衛
池田二右兵衛前家左兵衛酒造伊左兵衛太田弥左兵衛

小林次左兵衛野口典右兵衛小井長左兵衛清水十左兵衛
太田弥左兵衛丹羽治左兵衛加藤四郎左兵衛池田是左兵衛
都筑重左兵衛阿比志儀中根半兵衛小我右兵衛上ノお
進下ノも此攻口前ノ銃所ニ存有テ塙強ク難キ
込所ニ城兵ヲ警石ノ音ヲ鉄炮ヲ投テ砲臺子
討死ス左敵多ク之申ニケリシ難ク是ノ以テ城
攻而難ク又及、奈石谷十花也子左惣陳ノ相觸可
先引所ノ振ノ一斗流石主水人殺シ引取、此時
主水は敵と一斗斗繰引、引取又信と立お給
詰陳、便と立者同心より今一乘り改紐成し由

中を、城を寄手、我同心無之惣陳、引取、主水
之れ、下、内膳正討死、由とす、是死、取、取、
返、又、一、攻、う、系、入、由、お、進、は、城、を、黒、田、右、衛、門、傳、使、者
黒、田、右、衛、門、大、音、六、右、衛、門、河、原、五、右、衛、門、五、拾、人、死、引、引、引、引、
来、り、主、水、系、馬、ノ、子、獨、一、取、付、は、る、是、ハ、是、勿、祈、以、働、
下、は、と、云、て、主、水、と、引、取、ま、し、下、本、派、引、返、
は、同、未、刻、各、寄、手、の、人、數、少、少、本、派、引、取、
一、日、寄、手、討、死、者、數、合、三、千、五、拾、八、人、城、中、手、原、
北、人、總、九、拾、余、百、人、城、中、大、天、地、四、郎、時、貞、涉、等、を、根、
下、今、夜、勝、手、を、敵、陣、へ、今、夜、討、由、鐘、お、催、し、は、り、

同心等、少及、是、死、引、下、云、
一、寛、永、十、五、年、寅、正、月、元、日、上、使、板、倉、氏、は、五、位、下、由、
播、磨、重、昌、於、北、前、國、高、木、城、戦、場、卒、す、于、時、年、五、十、
一、年、是、板、倉、伊、賀、弓、操、主、次、男、周、防、守、重、宗、弟、也、
右、陳、屋、相、改、正、所、今、於、戦、場、へ、赴、り、時、石、谷、十、花、方、
書、き、一、紙、に、云、く、如、左、
一、去、年、の、と、日、に、江、城、より、烏、帽、子、に、緒、を、懸、
一、今、年、の、と、日、に、高、木、より、甲、の、緒、を、懸、
一、早、打、き、是、世、の、習、今、更、
一、あ、ま、の、年、に、始、り、散、子、花、の、名、の、し、は、り、先、駐、と、志、し、

山田右衛門傳使、城
中討死者、十七人、と、云、

正月元日

板倉日膳

石谷十花版

一云石谷十花版上云此所是

一内膳正北骸、象原城下江東寺、火葬家人
 却雨、伊藤半、九守護、京都上、板倉周防
 有、達、参、長、圓、寺、下、改、葬、法、名、持、月、院
 殿前尚食奉御、叙、源、光、大、居士
 一、白、戌、寅、正、月、之、日、江、戸、下、西、方、出、風、烈、矣
 吹、以、下、物、色、目、之、一、年、禮、出、仕、大、名、諸、族
 本、年、先、鋒、之、城、中、之、騷、矣、之、沙、城、山、屋

表、雨、戸、障、子、皆、立、四、於、馬、間、堀、堀、と、教、多、院、白
 晝、と、夜、の、如、く、一、何、後、想、以、終、一、以、目、見、傳、可
 以、の、悪、口、の、者、也、正、月、元、日、念、經、ノ、間、下、表、禮、の、儀、式
 焉、之、表、由、中、也、り、以、同、十、五、日、板、倉、内、膳、心
 討、死、由、注、進、召、し、内、膳、正、次、男、甚、右、郎、重、直、高、永
 一、下、郎、合、戦、化、度、由、牙、郎、言、上、以、免、之、無
 一、不、露、下、也

寅正月元日城攻の時討死同多見

一有鳥兵部大輔家人討死

細記 村上四郎右馬

洪範 白江左馬

早見 松田他多病

鉄炮 中善兵衛

駒田弥兵衛

川部少左衛門

淡谷小左衛門

久徳又左衛門

同子原 分

家老 有馬主水

銀次 陸田甚左衛門

同 中島善三郎

同 泥堂三左衛門

同 松平右衛門

調所才三郎

陸田十郎

物田宗右衛門

耳新右衛門

同 同 監物

銀次 石田主飯

同 渡瀬拍擊

同 柳生宗左衛門

津田九郎左衛門

池田力左衛門

以石又左衛門

阪権多左衛門

同 同 内記

同 吉田隼人

鉄炮 淡谷五郎八

同 水野善左衛門

同 三浦惣左衛門

同 土屋全左衛門

同 泥堂又左衛門

三浦勘八

出山三郎

宮川長右衛門

萩神吉左衛門

樋田市右衛門

遠田半之丞

山友藤右衛門

同 馬場加多郎

同 西澤左近右衛門

同 渡瀬平左衛門

富高甚左衛門

宇保助右衛門

武藤九左衛門

八条全右衛門

下村加右衛門

渡邊一右衛門

長谷七右衛門

同 山口新左衛門

同 飯沼五右衛門

同 渡瀬平八

草花次郎右衛門

中村右衛門三郎

吉田夜三郎

松井十左衛門

泥堂伊左衛門

糸田九郎左衛門

調所十三郎

阪本左右馬
 坂本七郎馬
 田中左之助
 餘田惣左馬
 市村左之丞
 郡之左郎
 久阪長之傳
 山崎十之傳
 阪本金右馬
 同家中、馬乘討死

板垣七之助
 尾関左之丞
 藤井七郎馬
 上原少左馬
 中村惣左馬
 竹井十左馬
 吉田仙左馬
 長谷原左馬
 堀江一平之傳
 川端市左馬
 平井三郎之傳
 田山左内
 遠藤左之傳
 伊藤左馬太
 平田左馬
 伊吹一平之傳
 戸田市十郎
 藤田曲左馬

嵩加助
 竹田左馬
 同有馬内記子、竹田主人
 小西九之丞
 水田七左馬
 香川長十郎
 田村孫四郎
 同家中、馬乘左馬
 松山惣左馬
 杉山吉十郎

松下門三郎
 加藤傳四郎
 富永左馬
 高田市左馬
 陸加右馬
 藤井左馬
 福原傳左馬
 森田伝左馬

稲田左馬
 下川善之傳
 加藤善之傳
 朽木茂左馬

堤理之傳
 石田左馬
 福原傳左馬
 森田伝左馬

阪井作十郎

二寺左馬

尾川伊右馬

津口次之助

吉田庄右馬

内藤清左馬

加藤信之助

堤右郎八

同日記子不付小宰人

神治太夫

川波平六

下川半十郎

塚本山三郎

内海助三郎

立之五七左馬

三枝安之助

中尾六左馬

菅原孫之助

井上伊左馬

富永覺之助

富安市也

垣添長之助

平家理右馬

板井十左馬

横山權之助

井上清左馬

北人拾三人 鉄炮之者同十六人 家中系黨同女拾人 下
子原百七人 鉄炮之者同三拾九人 家中之善黨同二百拾
人 下

物合而右百七拾四人 内百十二人 死
八百二十二人 子原

右之外家光稻次右近 同平岐前 庵仕寄 子付 西成子
原正月廿二日 死

一 稻次 信濃守 家人 并 同 紀伊守 甲斐吉 旌 存 凡 備 之
義 仁 子 子 子 子 子 百 七 拾 五 人 内 戦 死 五 拾 三 人 子 原 五 百
或 拾 二 人

南里右近 同日 同 四郎右馬 同日 浦原弥右馬 鶴田

五郎多傳木戰死也 如江 松浦市右馬 日 福地内就伏日鶴田
又左馬 日 同角左馬 日 成富 典右左馬 日 陸水金人馬 日 田
代右馬 日 作中召以下四百六拾人 以上子原也
獨島淡路吉同其藝子 子前 日 百一拾四人 内戰死百四
拾八人 如江深堀正馬 日 上野治左馬 日 更市右馬 日 傳四拾
人中召廿五人 以上百四拾八人 子原百一拾五人 内物此八
人 傳百五拾八人 中召四百五拾人 如江福地 日 郎右馬 日 陸内七郎
多傳 日 阿波佐史 日 渡邊五郎右馬 日 中馬多左馬 日 數五郎
多傳 日 石井三左馬 日 同堤八左馬
獨島善扶子 子前 日 百九人
他年十二月廿日松山城
条時柱人加

内戰死 如江 本系形馬 侍貳人 中召四拾人 以上四拾三人
内子原 如江 尾部七右馬 日 若清多左馬 侍拾四人 中召百
五拾人
以上子原百六拾三人
内早豐前子 子前 日 百四拾五人
但年四月十二月廿
松山陣条時
百三拾
三人加
内戰死 侍五人 中召四拾三人 以上四拾八人
内子原 如江 杉地甚左馬 日 侍三人 中召百九拾三人
以上子原百九拾七人
獨島中務正子 子前 日 百六拾八人 内戰死廿二人
但年十二月廿日
中召拾人

田子原 四拾七人 中百三十七人

鍋島右近 田子原 四拾五人 田戰死三人 中百

子原 四拾二人 中百三十三人

成富十右衛門 田子原 五拾三人 田戰死三人 中百以下

田子原 五拾二人 知江 成富 三政 生百 權右衛門

岡村監子 田子原 四拾二人 田戰死七人 中百 子原

三拾九人 中百

子原 十二人 知江 堀島 五右衛門 同 堀島

西之住 侍拾四人

堀島 紀伊守 同 甲斐守 旗本 四百八拾九人 田戰死 五拾九人

大江 鍋島 帶刀 知江 福地 三左衛門 大木 兵部子 堀島 共 子原 四百三拾九人 田

堀島 傳之場 大江 有田 左馬助 知江 成杉 新右衛門 同 村上

源左 丈 同 山本 甚右衛門 同 引家 左衛門 同 大木 兵部子

正左 衛門 兵部子 同 正之 傳 知江 福地 勘之 傳 同 堀島 又之 傳 同 去 紀

堀島 傳 知江 堀島 理之 傳 同 小川 玄 佐 同 馬渡 傳 知江

池田 典之 傳 同 十三郎 下 郡 七之 傳 左 堀 八之 傳 在 知江

右 堀 島 一 家 中 戰 死 子 原 都 合 貳 千 五 百 拾 貳 人

田 戰 死 三 百 八 拾 五 人 大 江 守 人 物 以 六 人 傳 六 十 二 人

中 百 三 百 拾 六 人 也

田 子 原 二 千 百 廿 七 人 大 江 守 人 物 以 五 人 傳 三 百 五 十 人

中間千七百九拾七人

一松倉長門守家人残北子屋之覺同右近子瓦

昇中 鉄炮江

中沢孫右衛門

伊吹平八

橋田長之儀

近藤源左衛門

右近持筒江 同

石井勘八郎

多久之市左衛門

柴田才之儀

村中惣之儀

奥者

稻生重之儀

黒田新左衛門

小川長之儀

多賀原左衛門

岩井若左衛門

板倉次右衛門

鈴木清左衛門

下司少八

上川平左衛門

金江角左衛門

菅田若左衛門

以上廿人足輕并侍百以下九拾七人家中若黨并下人
百二拾四人

子屋之覺

鉄炮江

伊吹半右衛門

能田若左衛門

矢島豊左衛門

長尾典左衛門

同

佐野惣左衛門

廣田六右衛門

伊中孫左衛門

島崎信左衛門

持弓江

伊知地左衛門

成瀬孫左衛門

三浦十右衛門

天方又左衛門

長柄江

菅加左衛門	鴨田左衛門	室壽右衛門	山田新右衛門
福西加左衛門	小幡曲右衛門	熊野小左衛門	由利孫右衛門
長理右衛門	原田權左衛門	吉良勘右衛門	孫島久左衛門
小川伊織	宇田右馬助	杉山五郎	太田權左衛門
井邦助左衛門	山本甚右衛門	高屋甚右衛門	吉部源右衛門
西尾弥八郎	塩塚加左衛門	佐世長十郎	吉田佐右衛門
堀助作	木部勘右衛門	石井權之丞	林之左衛門
木部弥平治	安藤吉左衛門	岡田龍也	馬場五左衛門
安藤信左衛門	白石市右衛門	堀地我右衛門	多賀角左衛門
武原七左衛門	原三左衛門	原久右衛門	柴田龍人

堀田左衛門 有馬弥平治 佐半左衛門

足輕并中間以下百五拾八人家中善黨并下百

六十拾三人外軍人討死或人久田大守并又典

子員拾九人

一寺澤兵庫頭内閣善左衛門討死

元日攻之前長門守家老右書出、

一兩方以鉄炮志押出之段、

一板倉之水換左近換上、

倉周防方重宗一書狀

一鍋島信濃有馬玄蕃立花飛騨守宗老并
松倉長門守右之者一城宗取予或孫仕寄責一可
任哉と申す事宗取予由申す百今款日未取
誥可申し事

一鍋島先子之人教堀近ノ貴寄、後在宗取予
以子子原死人の度事
一有馬玄蕃者在未明堀きハ、寄入御在孫に打立
此ノ御進子原死人教多の度事
一松倉長門守惣惣寸、此ノ子原死人御在孫に打立

も山度、予付玄蕃長門守子之者事、此ノ御進子
膳我亦惣出、下付侍、御在孫寸、此ノ御進子
合、堀きハ、是ノ宗取、是ノ御進子、一人ハ、宗取、是ノ御
堀き、子と、り、付、討、死、仕、上、一、書、子、と、り、付、の、下、中、ハ、地、鉄、炮、
我亦御も一所、ハ、台、少、自、原、中、以、上、兩、人、台、進、者
在、不、好、多、原、死、人、仕、者、山、度、御、引、取、ト、事
一立花飛騨守者在ハ子原死人一人も宗取、是ノ御
山度御日

松倉周防守右

石谷十藏貞清

江戸の住進に於て一帯に於ては許子に上
通相易儀の事あり
一言詔の寄手衆又取けりし物あり
と念を入侍掾に付し
一回膳飯北體取置りし事ハ多敷夜ありし
彼地言一灰に侍事
一此の膳飯拙者も多敷に掾子ハ御機を
此天下之寄合にては座の物も人教に同す
世中ハ是れ死儀に付し
一回膳飯拙者も拙者も切おられ石付に
計り

御りし事

一主水殿も御所も是れ内膳殿拙者も
ハ遠中取内膳殿付合も主水殿も
ハ波留る文敷言迷惑ハ召し
言

山月三言

石取十就貞清

板倉周防多殿

当、伊豆殿たつ殿此方ハ是れ是れ
御為ハ此許に掾子ハ内膳殿討死
也忘却とて所何れ多敷と存
私ハ随分情也

一 やまけふの物とて石火矢と打てせん可し
 一 あさきゆめみし 玉もやらぬ登田をも四郎とよめたれ自利ぞ
 一 三三四五六七の身を捨よ八九十までいきてもか
 一 寄子族指物是 次子月記
 一 板倉内儀正 馬印朱 大瓢葺指物 輪貫半月
 一 白切さき昇白赤二色よ上いひの字を墨にて
 一 女家中の指物同前
 一 石取十花 指物 浅黄の四本に金の五文字
 一 松平伊豆守 馬印 二色大おくだ上細し指物七色

一 柄つち 白丸^衣番指物 日中四半 黒餅昇白地 黒の
 一 ありと 数十一本内一本吹負白丸切付 旗炮
 一 の者指物二本志ない^紋取を昇同前
 一 戸田乃 馬印 金 標書 指物 紺四本 面 名
 一 昇十一本内一本大四本白丸取朱丸三ツ宛 旗炮
 一 の指物昇同前
 一 馬場三郎在馬つ 指物 赤四本 白五本
 一 牧野信光 指物 銀大札七 五人中 いろはにほ
 一 へと 先取や
 一 丹丹波吉 指物 金大札七 五人中 南無妙法

蓮華經如斯也

一 鍋象法徳寺

馬印 白イ唐麿、以昇三拾五黒々

一 釜指物思

鉄炮指物志あり、昇同有

一 鍋象甲斐寺

馬印 紺の輪貫切き、上三毛

一 番指物思

昇二十一、一本赤きつ、鉄炮指物昇

同有

一 鍋象紀伊寺

馬印 大毛、金の大瓢、昇

一 二十一本白々

鉄炮指物昇同有、番指物思

一 鍋象法徳寺

馬印 大毛、金の大瓢、昇

一 旗早遊

指物多毛の持昇、二十本

一 白々、つ、上、小鉄炮指物昇同有

一 多々美作

指物赤々、大毛、出、毛

一 鉄炮指物一本志あり、昇同有

一 後藤善快

指物紫の志あり、昇二十本

一 黒白々、つ、鉄炮指物昇同有、赤々

一 有馬兵部大輔

馬印 二、白々、白大毛、昇

一 之の毛昇三十本、白、黒筋、二、江打貫、番指物

一 四本昇同有、寂有、銀の大つき、元日

一 小鉄炮、付仕替、小物、毛の、月鉄

一本志乃心

一黒田右馬侍家来

一森左近指物黒く星目毛昇八本中白紋行

貫者指物五本二日衣物鶴思

一野村右京指物四本赤根毛昇五本中白

一山口縫屋助指物白衣紺筋也昇八本中白

番産物同右

一黒田英作馬印大みの子白衣切付指物白

巾帯三本昇十三本中白番指物同右

一黒田盛物指物浅黄一本志乃心

一黒田平左衛門指物志乃心衣黄也上黒餅一ツ

昇拾本中白番指物同右

一館田光兵衛指物黒色大以黄

備後福山城主

一水野日向守番拾物紺地四本三紋裏水樂

鉄炮指物二本三紋同赤浅黄昇廿本紋裏水

樂一五中毛七の唐笠

一小笠原右近左五中銀二毎のつるが園子

出し毛昇三拾本衣赤根紋松々白鉄炮指物

二本志乃心紋同赤

一 小笠原信濃守 馬甲二枚に握り皮の丸指物緋
縮緬に貫番指物四半紋松の鉄炮指物四半

備州姫路城主

一 松平丹波守 馬甲大四半衣貫紋振毛柿昇

廿半紋日赤番指物赤根紋同右鉄炮指物日赤

一 有馬左衛門代 馬甲黒地の大四半有上云字查

也昇廿半白の上黒十筋二ツ下凡皮黒凡番

指物四半黒凡金の凡の紋鉄炮指物并同赤身

身凡指物白凡ま凡ま凡の衣長八尺凡等凡竿凡と凡より

去凡物の糸凡を凡法凡不凡て

- 一 黒田守康の指物志ふい衣貫也上凡黒餅一ツ
- 昇拾本中白番指物同右
- 一 飯田覺之傍 指物黒起大吹貫

備後福山城主

一 水沖日向守 番指物紺地に四半凡紋衣永赤

鉄炮指物二半凡紋同赤淺黄昇廿半紋裏水

赤馬甲凡赤毛乃唐笠

一 小笠原右近大丈 馬甲銀凡二枚のつふ凡圓子

七凡毛昇凡三拾半衣赤根紋松凡白鉄炮指物

三本志ふ凡紋同前

淡路守同章 何我 十二月三日 江戸出府云

一 元十一月廿九日 江戸出府 正月二日 高尔表 兵若

一 先立 山下 高尔 之付 高尔 近國 大名人 数 或

自 又 出 勢 先 細川 和 後 高 尚 人 数 二 万 三 千 余 人 正 月

三 日 肥 後 國 何 先 高 船 志 下 同 四 日 晚 回 國 州 川 津

着 船 之 担 助 数 萬 之 燒 城 之 衆 之 奪 尔 津 高

一 里 之 陣 陣 凍 之 張 下 翌 日 之 刻 斗 有 馬 押 入

城 之 成 亥 方 山 之 上 陣 取 取 高 津 之 庫 以 堅 高 之 守 表

其 云 何 府 之 正 月 二 日 有 馬 表 一 之 衆 凍 之 於 度 之

軍 之 附 家 人 数 多 之 討 北 之 令 引 来 之 人 数 總 斗 有 之

一 松倉長門守 高 之 軍 人 数 多 之 死 傷 之 相

勅 之 多 難 計 高 就 之 上 官 任 下 官 細 川 人

数 入 殆 之 由 之 下 渡 出 進 子 之 子 陳 留 作 肥 後

督 之 陣 之 清 取 仕 寄 之 初 之 者 之 方 之 每 弱 弱 操

之 治 在 家 中 之 者 之 打 抄 之 面 之 皆 以 痛 手 之 死 生

之 少 知 其 多 之 中 之 戰 難 打 叶 趣 寄 正 之 由 也

一 豆 州 左 門 城 外 之 巡 檢 志 之 菟 城 始 末 之 操 新 之

能 少 由 之 料 簡 之 下 下 下 據 此 城 一 揆 之 軍 以 民

之 斗 思 傷 之 道 皆 之 之 越 度 之 者 也 向 後 之 仕 寄 之

之 斗 思 傷 之 道 皆 之 之 越 度 之 者 也 向 後 之 仕 寄 之

之 斗 思 傷 之 道 皆 之 之 越 度 之 者 也 向 後 之 仕 寄 之

附ヶ竹東榎遠鉄炮以下城兵と令會釋之
も亦く城を圍て一揆不自然とて退屈接各の
より由事手而一平復

一寄子に而追々集陣有(次)正月十九日黒田右
衛門佐助老黒田美作有(一)律同廿五日右衛門佐
舍弟甲斐守長與同市正高政入津同廿八日黒田
右衛門佐忠之自弟有馬一系陣是筑前國主人数め
雲霞之同月廿六日細川越中守忠利并日向國
新田城主有馬左衛門佐直純赤本臣地と康純也同死
人年係同廿九日肥前國佐賀の城主鍋島直茂が勝

茂系係今據信口一輝經日記二月九日自江戸歸家同名紀伊書甲

斐守其外家老共ハ事ナク左衛門也二月廿日夜筑

後國久留米城主有馬玄蕃以共氏系係子忠之部大

輔旧者今在係同月七日輝經日記同國柳川城主立正

飛彈古宗茂系係是也子忠左近將也事ナク左衛門

同月九日豊前國小倉城主小笠原右近在事ナク同國

中津城主小笠原信俊有(一)次系係同月十日大隅薩

摩日向三ヶ岡守復舊津薩摩方光久海代系係下

事ナク多勢事ナク江津一系係同廿日備後國福山

城之水野日向日勝茂水野美作有(一)事ナク入係右也

江戸系勅之在府たまたま此花の何運成保の
賜り早帰國之と用意尚表、おありは
一目附進下向次第正月十六日井上統後夜入
有言、入子息清之傳と同途七月三日江戸出府
由也、在江右博同日廿五日の夜有言、入津輝記日記
本四八三
今日十三日江戸出府、由同廿九日有言、出船江戸、
歸、吉城越、有言、石川弥左衛門、同日廿八日有言、入津、
二日有言、出船、江井岡幡、駒村長次郎、二月廿日有言
入津、同日有言、出船、市橋三四郎、二月廿二日輝記日記
七二七有言、
有言、入津、同日有言、出船、水野藤橋、二月廿二日輝記日記
一〇〇有言、

入津、初、末、四郎、之、傳、下、有、言、根、三、十、郎、二、月、廿、三、日輝記日記
九二二有言、
有言、入津、三、浦、志、摩、吉、部、越、七、郎、在、傳、二、月、廿、四、日、有言、入
津、同、廿、八、日、晚、志、摩、吉、出、船、右、何、也、江、府、向、下、尚、表、
有言、及、言、上、下、云、
一、高、原、城、在、者、久、留、高、原、波、吉、正、月、十、日、入、津、以、十
八、日、之、也、初、之、豐、後、國、粹、統、傳、主、小、笠、原、吉、崎、吉、同、廿、一、日
系、若、下、有、根、三、十、郎、三、丸、寄、宿、在、者、吉、次、本、丸、七
岐、吉、二、丸、丹、波、吉、三、日、附、三、十、郎、也
一、寄、在、政、口、臨、海、之、波、平、东、方、進、子、日、細、川、越、中、有、父、子
其、次、如、之、立、是、形、孫、吉、父、子、在、倉、吉、吉、足、守、吉、吉、去

一月廿一日立左近古牧野傳花ヲ以城中一金鑿ヲ
入ノ度由新証アリ

二月廿日鍋島多助之築山おろし阿蘇佐人の石火

矢破ケ阿蘇佐人一人死ス又城中ノ小角の鉄炮は佐佐

人ニ由テ是又死ス同証阿蘇佐人等是ノ由テ皆去

崎へ返ル也此等事は阿蘇佐人の証に依りて一月廿日阿蘇佐人の鉄炮は佐佐

一月廿八日鍋島多助ノ石火矢又破ケ破此等事は阿蘇佐人の証に依りて一月廿日阿蘇佐人の鉄炮は佐佐

一月廿九日鍋島多助ノ石火矢又破ケ破此等事は阿蘇佐人の証に依りて一月廿日阿蘇佐人の鉄炮は佐佐

二月廿日鍋島多助ノ石火矢又破ケ破此等事は阿蘇佐人の証に依りて一月廿日阿蘇佐人の鉄炮は佐佐

二月廿一日鍋島多助ノ石火矢又破ケ破此等事は阿蘇佐人の証に依りて一月廿日阿蘇佐人の鉄炮は佐佐

二月廿一日佐城申夜討之次第

一二月廿日砲烙火矢七十挺木桶百枚以儀

一月廿日百豆州の本陣一寄手ニ証アリ

一越も豊城越あり石川孫右衛門中渡比但々日馬田

足弟三人兼得之庫証アリ

一東方細川軍口より見透

一藤と拾と所あり及

一其母一守局たる細川方根木と

一其母一守局たる細川方根木と

一其母一守局たる細川方根木と

一其母一守局たる細川方根木と

果を困窮し名に就城程有る由り之と云
一城將大矢野四郎時貞誘人々集先評定共謀に有江
監物と云者追ノ中近口之糧つまずい餘死せんと
ハ夜討に出て敵軍と戦し北東に火を懸け陣を
焼て寄子と悉追払い寄子に之糧を鉄砲玉集り
奪りて城兵の助に致す由り云四郎も此後尤も
城中者も目とさすせしむるに云同茲同月廿一日
夜若城兵夜討に出り寄子に内細川子先ハ鉄砲烈
に仕寄子に付し此子に討出城兵多うう候也有る立
を多子の村に地所の駐場は是れに陣除く去て只

瑞島寺澤黒田比三陣一切出と云に子分は法才其縁
女多傷右津郡代馬門西人千四百余人と云黒田陣は向
上総郡三平千輪郡五郎左馬門西人千余人と云瑞島
寺の向天主玄札三百余人と云瑞島寺向小倉に火
を付し云外に三十人斗と山に子に陣を火を放
つためんも其以上一揆も三千余人相初お申と定り
夜丑刻に右三陣一切出戦一揆軍兼中合せし
く北東に火を懸け鉄砲を打聞と化多一月一切
至ハ城中に御ん者も皆一同ありと合下勅發
鳴り響く是向在場は佐持に仕寄番の家光黒田駐物

云者大才ノ多勢と存し、然一揆亦押包ケル
物も幸見と置テ夜討包リ来リ由と先立テ少
敷の圍と行^{片立}アテ弓鉄炮と四ノ伏セ置隨分防戦
と之とも二夜迄一揆亦切立テ水邊取込ニ度目
一揆の鉄炮等如ク頭ニ當リ左右ノ打抜キ即討死
由子息黒田佐右衛門松助といテ父討死の報見及
由大勢の中へ切入テ佐右衛門ノお續テ少川繼成ノ由
助を情郡徳太史新見を備杉山久太史亦五六十人度ニ
切出各働^一一揆亦悉ク切立テ八方ノ遊取、方深名度
以備^一おわても三宅藤右衛門長刀と提テ真先切

出粘骨と其にお働^一敵三人學討死^一其外古軍
勢數多切出一揆と悉追拂、鍋島父子陣所至
各切出お働^一一揆數多討死^一一揆亦三隊の夜討
各利と失^一討死^一人数數多^一一揆亦討死^一討死^一討死^一
其夜の中一揆の軍悉城中、引取早三隊討死
の一揆、頭數都合百五十八級生捕廿四人^一其方
の多^一死^一人^一三隊都合百五十余と云^一
今堀奉行は此下の子
二百五十五捕死と云、日記に討死七十五人討死數
二百五十五捕死と云、日記に討死七十五人討死數
一今日立玉飛弾者ハ城兵の様子と幸見して云々
と夜行我用の由^一大抵ハ夜討者^一併搦

寺澤あんとの子、定不切出、屋さりと云、諸人乞と物
不処、葉のさく、夜討五、翌日此音如何、由は
飛騨古、時、何を、飛騨古、八、城、夜討と、管
い、る、お、難、分、入、智、立、智、屏、櫓、挾、百、北、内、り、寄、手
の、陣、と、物、見、志、り、中、も、多、深、鍋、釜、を、懸、り、見、口
由、見、及、い、る、お、叔、を、今、夜、必、城、を、夜、討、之、と、察、し
た、り、也、此、多、軍、さ、の、習、も、多、り、事、由、り、諸、人、皆
飛騨古の老地と云、云、云、

一、同廿二日、豆物、公、陣、中、一、物、出、り、し、三、百、と、田、角、苗、一
下、小、笠、系、寺、岐、古、久、苗、系、丹、波、系、人、数、と、以、て、近、江、と、云

山指一揆の人数、お、搜、一、尋、し、同、廿、五、日、城、を、圍、む、諸、人、志、
妻子、細、川、子、先、一、夜、事、と、搦、捕、畢

一、富、二、月、廿、一、日、夜、討、の、時、味、方、討、死、同、子、原、と、覺
一、黒、田、右、衛、門、佐、家、来、討、死、子、原、覺

- | | | | |
|----|---------|----------|----------|
| 討死 | 黒田 監物 | 同子 佐右衛門 | 新之右衛門 |
| | 却摩 孫左衛門 | 杉山 文右衛門 | 庄井 八右衛門 |
| | 原 吉三郎 | 牧 甚九 | 浦理 米平 |
| | 二神 七左衛門 | 由良 常時 | |
| 子原 | 落合 云左衛門 | 飛田 四郎右衛門 | 同 弥平次 |
| | 杉山 治左衛門 | 戸田 角左衛門 | 稻 曳 九右衛門 |

高屋九右衛門

井口牛右衛門

二神九右衛門

本多五右衛門

土橋三四郎

衣槻安左衛門

吉田九右衛門

吉田三郎

船川久左衛門

高杉八郎

又家中討死子原

伯討死十二人同子原四拾三人

下死人士一人同子原四拾七人

合百四拾四人同三拾八人討死

一 黒田甲斐守 家来討死子原五分

討死 羽将松元

羽将敦左衛門

子原 畑源右衛門

成田仁左衛門

右田六左衛門

松田孫右衛門

是輕又小者三人合十二人

一 黒田市正 家来討死子原五分

討死 家来 明石権元

吉水平元

廣瀬清左衛門

松橋治左衛門

吉水七左衛門

川村四郎左衛門

塩川三左衛門

子原 吉田平左衛門

明石九右衛門

辻新左衛門

吉田百右衛門

辻半三郎

弓削信左衛門

廣瀬信左衛門

松尾茂左衛門

島井市左衛門

神中及之助

森川角左衛門

言觀助左衛門

村上又左衛門
神崎左衛門
板口仁左衛門
三好左衛門
上田高左衛門
吉田左衛門
中村三郎左衛門
森市左衛門

合七拾九人内拾五人討死
吉澤左衛門 家中討死
子原之右衛門
松下右衛門
池田新助

中村十三郎
谷寄左衛門
右何七
三宅藤右衛門 總之者也

子原 三宅藤右衛門
中村権左衛門
藤井左衛門

足輕四人合拾五人

一 鍋島信徳 家中討死
子原 秀高 曾島 木下 孫右衛門

子原 龜川 彦右衛門
出保 伴右衛門
松浦 源右衛門
石丸 九郎右衛門
中島 孝忠 曾島 毒目 清左衛門

本富 権左衛門
高渡 田寄 孫左衛門
牧江 権左衛門

又家中侍下 討死 子原

侍討死 七人 同 子原 廿一人
下 討死 廿一人 同 子原 九拾四人

合百六拾人内三拾五人死人

一鍋島紀伊守家中子辰之介

子辰 富田五郎左衛門 鍋島五左衛門

松田七左衛門 出木主計

此外討死しもの者之

右六家中都合四百四人

九十四人討死
三百十人子辰

同夜討し時寄子口打捕城を首敷

一首六拾三内三人捕 黒田右衛門依左 一首二拾四内二人捕

黒田甲斐守子

一首十一 黒田市正子 一首百一拾九

鍋島信忠守子

一首三 鍋島紀伊守子 一首三拾三

古澤を彦守子

右合首敷貳百九十一

三夫中一鍋島紀伊守子
首三立夜能強者三首

同合小 伊豆守信経乃氏鉄骨守到表及中御次第

覺

一指園ノ所筑山城中又下し程高クノ威程甚急

築立ノ事

一右ノ築山築立中内せいらノの支度ノ事

一諸子小屋場ノあり造事 但廣カ五百ノ事

以上

松平伊豆守

正月四日

戸田左門

諸子家老申

持口惣百八拾貳間

内 三十二間

内 百四拾二間

内 貳拾五間 道引

持口百拾五間

一 九拾二間

細川肥後守

一 七拾二間

松倉長門守

一 三拾九間

有吉兵部左輔

一 拾九間

立花左近

合百五拾七間

惣百八拾六間 内 四拾二間 有吉兵部
百四拾二間 長門守 此 四拾五間 道引

知行萬貳拾貳石

有吉兵部左輔

同 四萬石

松倉長門守

同 十萬石

立花左近

同 五拾四萬石

細川肥後

ノ 九拾二萬石也

道引ノ 五萬石 付地ニ 千石 四尺 宛ニ 當但到 録リ 付 兵部 長門守 一 合 付 長門守 持口 九萬 四尺 石

後 又 持口 相 渡 見

一 貳百石

松平右馬侍

一 四拾石

与深名庫

一 百九拾石

鍋島信濃守

宣正月十三日

條

一今度为吉利支丹徒黨汚仕置 亦不有言 表一名
指越台西人等下 到台城攻生 什之候 和之付
召致之也

一喧嘩口福堅停山之事

一少之押買根籍事

一在陈中人通停山事

一お小倉城火之本望之申付事 叶平野
付取不放極 之申付事

一每夜中候候事 之候急攝下 之急夜之申付事

一善陈捕之望事 仕穿人 お召之者 之申中者 同

之軍法 如宵事 申致旨事 之定 之指置事

右之申古 以旨者也

戸田左門

宣正月十四日

松平伊豆守

覺

一上意之次第筑塔 仰渡事

一皆以一同之申合事 拔置 何事 致召致事

一柵之第一築山 第二之役仕寄 是是事

一道化寺 為石 付寺人 出之申

一 石火矢同玉葉借之下
 一 鑄物沙一付玉鑄とす
 一 仕寄之張番と跡之尤多
 一 引舟とす但唐船葉^葉付とす也此方舟出
 一 寄合築山一所百目筒武挺合葉百貫目
 右 上操々仰付と弓中防長を備殿新木三郎右衛門
 及同玉葉^葉付とす
 以上
 右 正月十八日仰付也
 同月十九日雜兵と仰付と葉と

一 石火矢并玉葉中坊新木西所之形之何哉
 一 唐船とす所ノ五ノアタリ葉内者
 以上
 正月廿三日^日仰付也
 仕寄之仕事
 築山を志とす竹束と付石火矢と為事

一 樓橋之事
 一 浪人并使者出付之事
 一 系系以城一出入使者門口は此方は者一商人能付
 置き岐原丹波原に加番以入させし本官は方
 之者入付は廿一日に何時も出入付答は
 仰付生通りと申す事
 一 重海に四ヶ所番所は中此方へ尋ね老に供置是
 ち加番に者沛老に官に何家老に和と致上置
 均しに是れを重なる形に引合通し答は
 仰付事

此外石火矢数第に負数中と付と余に衆に
 仰付事

以上

- 一 城之間敷何程まで仕寄るに付事
- 一 火矢に事
- 一 弓射し者敷に事
- 一 玉葉置所に事
- 一 築山に事

右二月二日牧野侍花中渡す

以上

夜討入り翌日陳之制書

覺

一 今夜自然討もりて水小屋に於て居候に
 子あり人教改りて事
 一 山に材木薪竹取に事ありて一人も居候人
 一 是れ褒美出り可中事
 一 手形なくして海海に舟三隻より一艘も出り
 召おし舟に由りて改りて事

二月廿二日

見渡候云とり傳りて事ありき

捕寅二月廿日生収首と晒し付の書札

一 此者方より似せ又りて事

一 豊後河に川尻と傳りて事あり

一 道中宿より川尻より有馬と傳りて事あり

一 右之料より女中付者也

二月

寄在大名肝煎之覺

細川越中守方肝煎

馬場市在事

大矢野部小左衛門口書

和曰此口七二西哉ハ
少一本也と述す

浄尋、付申上覺

一丁字一揆起、儀を象取世起之後、言は座象取
有、言は内若川部三吉と申、去去年十月、此是理
沙、此は談儀と仕法と弘光、此は撮子象取、此は下
三付象取、此は波三吉、此は撮捕、此は象取、此は
利交丹罷成、然所十月廿六日、象取衆、象取軍、此は
所、象取衆討、肩地、下町、此は妙、燒拂、通、此は
庫、此は領了、字、此は由上、津浦、此は若同、領了、象取、象取

一、揆起、言は海と申、言は上津浦、一揆起、由は、大矢
神、此は、一、海、象取、象取、此は、撮子、此は、廟、此は、言は、代官
衆、此は、理、貴、理、沙、此は、立、歸、言、此は、存、十月、廿七日、上津
浦、迄、年、所、此は、言、時、上、津浦、此は、言、此は、付、和、在、通、此は
言、此は、由、此は、言、貴、理、沙、此は、立、歸、言、此は、代、官、此は、象
、由、此は、言、此は、相、此は、左、攝、此は、言、此は、言、此は、言、此は、言、此は、言、
代官、石、象、取、右、馬、取、此は、象、取、理、沙、此は、立、歸、言、通、此は
廟、同、此は、罷、通、大、矢、野、一、同、字、音、立、歸、言、事、
一、一、揆、起、言、四、郎、天、字、象、取、去、十、月、十、日、此は、上、是、此は
大、矢、野、此は、由、越、浦、此は、右、郎、通、此は、言、此は、言、此は、言、此は、言、

寛永十五年二月廿五日

小左衛門尉

乃美市高尾原

町市元辰

細川越中守子一射出以矢之馬

今度為之及菴城之取國亦之望宵中様之
思之、江聊北之儀吉利支丹之宗旨亦之、
以存別宗之、
撮教之度以信之仰身及之迷惑信然中治生
能遁存者、依之、宗旨之、以紀の綱、利非
人目之他法或現恥辱或甚窘迫致為後、

帝之責殺早、
不思何、天意難斗、
之、
弱之、
生終之、
餘、

正月十五日
伊豆守方、
家光

一 六百号挺

用之立筒大小色

一 百拾六挺

大小取之世後不立換物

一 三百挺

但是花塔之内換

一 百四拾二挺

上方上筒大小

一 合千五百拾九挺

大小筒最前目録廿四筒数

一 五挺

但言凡長筒

一 百

錫島信濃守殿

一 右同野

筒玉茶三之丸

一 三挺

細川越中守殿

一 百

松平右衛門佐殿

一 五百

堀家屋口

一 貳千

多久美代

一 貳千

濱田弥之博

一 百

中野長之博

一 貳挺

寺深之庫

一 五拾貫目

田中宗史

一 右同野

筒玉茶三之丸

一 三挺

細川越中守殿

一 百

松平右衛門佐殿

一 五百

堀家屋口

一 貳千

多久美代

一 貳千

濱田弥之博

一 百

中野長之博

一 貳挺

寺深之庫

以上

田中宗史

尾本新之橋

多賀主水

鳥原城中外加已迄明地之覺

一 本丸在烟貳拾百北九百西

二 九五拾間西東廿五南北南

三 九百屋南東廿六南西東十南北南

四 勢南七拾南西東廿五南北南

五 細工所南道廿間南三南西東

六 大下屋廿百南廿九間西東

七 馬屋之丸百廿間南五拾四南西東道

一新屋敷貳百四拾間南四拾百南西東此行原本院
今更

宣正月十二日

大工 五郎之傳
同 作 助

田中宗史老

覺

吉利支丹立歸申北部三人教惣積

一 貳第六千九百八拾五人内

右一内貳千四拾三人吉利支丹三人共五

由千八十二人也 千一十一人也

一 寺第千四百七拾号人吉利支丹并世之部并原所卷

内九千九百五拾九人男 一千五百拾二人女

一 吉刺支丹并立海部并人教并電教

一 貳千六百貳拾二人内 千三百七十二人男 千三百一十人女

内千四百二拾四人内 六百八十五人男 七百卅九人女

内千二百二人内 六百廿七人男 五百七十五人女

一 電教五百八间 三倉部

内 貳百六拾八人 吉刺支丹 残百姓

一 八百拾三人内 四百三十八人男 三百七十五人女 系原部 吉刺支丹

内四百十五人内 貳百廿五人男 貳百人女

内三百八十八人内 貳百十三人男 百七十五人女

一 電教百四拾七号 系原部

内 七拾三人 吉刺支丹 残百姓

一 七百拾九人内 三百八拾六人男 三百三十三人女

内 六百三拾五人内 三百三拾五人男 三百人女

内 八拾四人内 五拾三人男 三拾三人女 吉刺支丹

一 電教九十九号 中木場部

内 八拾五号 吉刺支丹 残百姓

一 七百八拾六人内 三百七十四人男 三百七十一人女 安地部 吉刺支丹

内 百八拾四人内 百三人男 八拾一人女

系原部

系原部

系原部

系原部

系原部

系原部

系原部

系原部

一 竈教百拾五間
內 五百貳人內 貳百七拾一人男 二百卅一人女

穢百姓
安江村

一 千八百貳拾四人內
內 二拾五間 八拾九名 吉刺五丹 穢百姓
九百四拾七人男 八百七十七人女

深江部
吉刺五丹

一 千六百四拾人內
內 百八拾四人內 九百五十三人男 七百八十七人女 九十四人男 九十九人女

深江部
穢百姓

一 竈教三百拾六間
內 貳百七十七名 吉刺五丹 穢百姓
三十九名

深江部

一 千百三人內 五百八十八人男 五百廿三人女
一 竈教百九拾六名

布深部
同部

一 八百六拾五人內 四百七拾五人男 三百九拾五人女

崇寄部

一 竈教百八拾三間
一 四千五百四拾五人內 貳千貳百九十三人男 二千二百五拾二人女

同部
有家部

一 竈教百七拾名
一 五千百七拾二人內 二千二百六拾四人男 二千五百八人女

同部
有家部

一 竈教八百貳拾七名
一 三千九百四拾九人內 貳千三十四人男 千九百拾五人女

同部
加津佐部

一 竈教五百八拾名
內 四百廿貳名 同部
百五拾九名 白津部

同部

一 千五百六拾貳人內 千四十二人男 五百廿一人女

串山部

一 竈數 ^中 百九拾貳名

一 千四百六人内 ^{七百六拾二人男}

内 千六拾七人内 ^{六百廿二人男}

内 貳百卅九人内 ^{百四拾一人女}

一 竈數 貳百四拾貳名

内 二百四十八 ^{吉利支丹}

一 貳千壹人内 ^{千九十八人男}

内 八百貳拾五人内 ^{四百廿七人男}

内 千百七拾六人内 ^{三百九十八人女}

一 竈數 三百九拾五間

同郡

串山郡

吉利支丹

残百姓

小濱郡

千石郡

吉利支丹

残百姓

千石郡

惣合

貳千七百六拾七人内

内 貳百九拾名 ^{吉利支丹}

内 千四百三十九人内 ^{千四百三十九人男}

内 吉利支丹 貳千三百九拾九人内 ^{千三百九拾九人男}

竈數合

四千六百七拾名内

寛永十五年寅二月十日

多賀主水

岡本新之助

田中宗史

吉利支丹之無之部人数并竈数

一、二百六拾八人内 百四十四人男
百廿四人女

东空閑部

一、二百六拾八人内

同部

一、七百廿一人内 四百七十一人男
三百拾四人女

大理部

一、百九拾四人内

同村

一、七百四拾人内 四百拾七人男
三百廿九人女

汤江村

一、百五拾九人内

同村

一、千貳百八人内 六百八十九人男
五百十九人女

多比良村

一、百五同竈数

同村

一、千百六拾七人内 六百七拾五人男
四百九拾貳人女

土黒村

一、拾四同竈数

同村

一、九百四拾五人内 五百廿九人男
四百拾六人女

西江村

一、百七拾三同竈数

同村

一、八拾四人内 四拾四人男
四拾人女

伊古村

一、拾三同竈数

同村

一、四百廿一人内 貳百廿五人男
百八拾五人女

伊福村

一、五同竈数

同村

一、貳百五拾五人内 百廿九人男
百拾六人女

三室村

一、五拾同竈数

同村

一、二百廿五人内 二百廿六人男
二百八拾九人女 守山村
 一、拾九百〇九人内 六百廿八人男
四百九十六人女 同村
 一、千一百廿四人内 六百廿八人男
四百九十六人女 山田村
 一、拾七名 加手丸 同村
此は、
江を以て
捕小
 一、三百或人内 百七十八人男
百廿四人女 野井村
 一、五拾七名 寛教 同村
 一、貳百四十八人内 百四十五人男
百三十三人女 吉津村
 一、十三名 寛教 同村
 一、八百八人内 四百三十三人男
三百七十五人女 西吉賀村

一、百廿九名 寛教 同村
 一、五百廿八人内 貳百八拾人男
貳百四拾七人女 日見村
 一、百零三名 寛教 同村
 一、千或百五拾七人内 六百九十一人男
五百六十六人女 茂木村
 一、百九十八名 寛教 同村
 一、百九人内 五拾三人男
五拾六人女 花崎村
 一、名 寛教 同村
 人数合 千八百九人内
四千七十八人男
四千零一人女
 寛教 千九百六拾貳名
 寛永十五年寅二月十二日 多賀主水

同本新兵衛
田中宗丈

右在有馬一末目録也

松平伊豆守家来

一家老 和田利彦係 小澤仁右忠 小澤田右忠

石川他右忠

一出頭人 布施十右衛門

一奏者 菅沼左衛門 神保源右忠

一使番 奥村権九 佐井三郎 小泉左衛門

長谷川源忠 岩上角通 竹山強右忠

一百廿九石竈敷 同村

一五百廿八人内 二百八十三人男 二百四十七人女 日見村

一百零石竈敷 同村

一千貳百五十七人内 六百九十三人男 五百六十六人女 茂木村

一百九十八石竈敷 同村

一百九人内 五十三人男 五十六人女 枕寄村

寺石竈敷 同村

人数合 寺第八百九人内 五千十八人男 四千七百九十二人女

竈敷 千九百六拾貳石

寛永十五年寅二月十二日 多賀主水

萬曆十年二月十日

編林 十戶可... 谷...

人... 谷... 十戶...

一 林... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

一 田... 谷... 同女

